

令和8年度 全国学力・学習状況調査の実施結果について（概要）

令和8年4月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が、文部科学省より公表されました。本市立学校では、小学校37校2,792人、中学校18校2,539人が調査を受けました。実施結果の概要について以下にまとめました。なお、調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査対象 国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年 原則として全児童生徒

○調査内容

◇教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）※CBT調査の導入（中学校英語）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

◇生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童生徒に対する調査

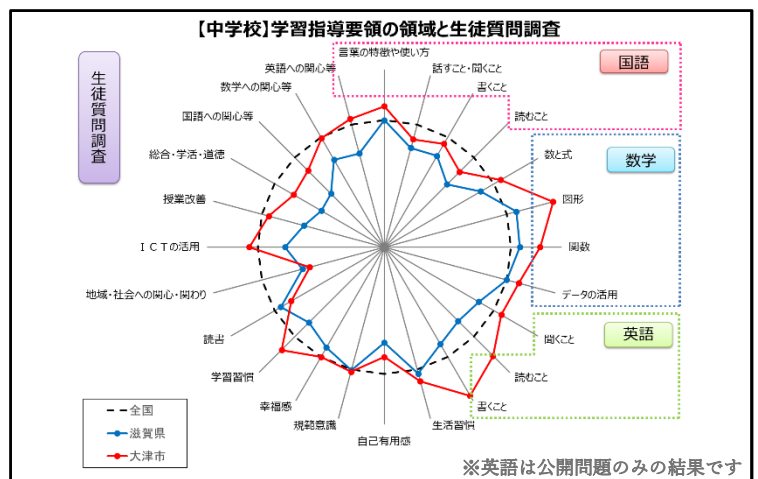
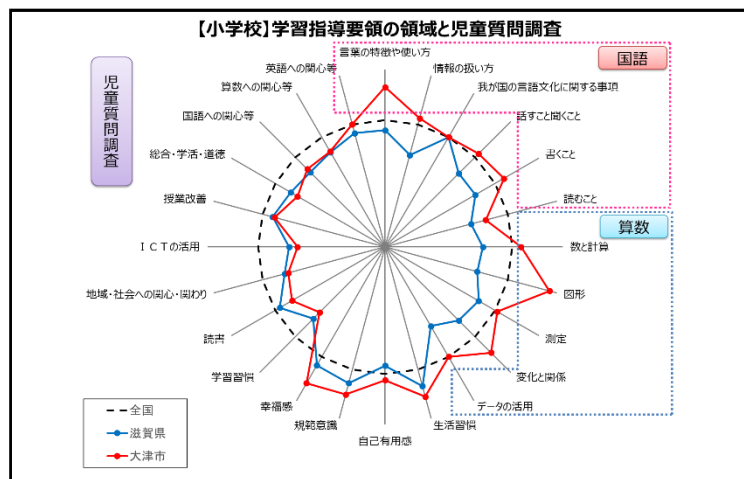
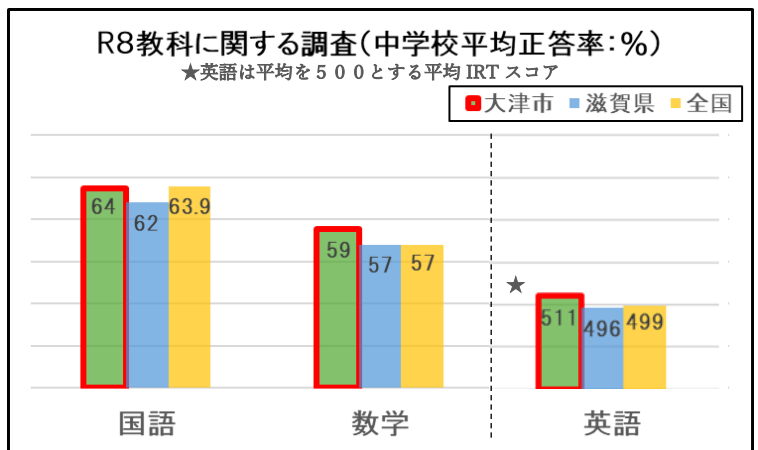
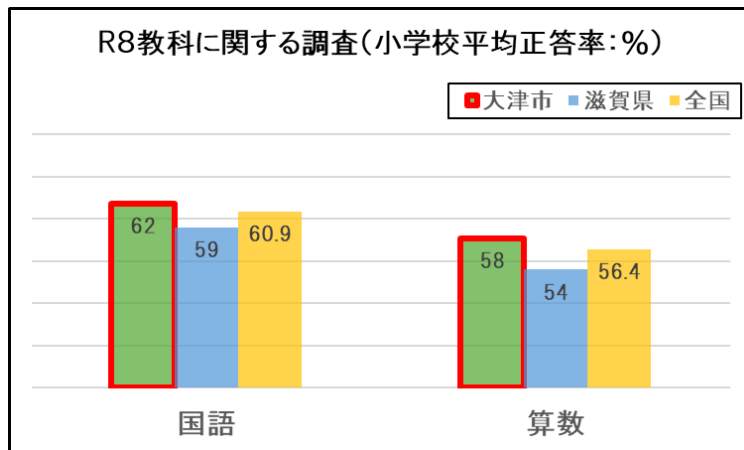
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備状況等に関する調査

○調査結果の概要

◇教科（領域）ごとの結果と概要



- 小学校国語・算数、中学校国語・数学・英語は、いずれも滋賀県の平均正答率及び平均IRTスコアを上回りました。
- 中学校国語は全国の平均正答率と同等程度、小学校国語・算数、中学校数学・英語は、全国の平均正答率及び平均IRTスコアを上回りました。

◇児童生徒質問調査の結果概要

【全国平均と比較して高い結果となった主な項目】

（小学校・中学校共通）

- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」
- 「友達関係に満足している」 「学校に行くのは楽しい」
- 「授業でPC・タブレットなどの授業での使用頻度」
- 「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」

（小学校）

- 「学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思う」 「自分には、よいところがあると思う」
- 「英語の勉強は好きだ」

（中学校）

- 「数学の勉強は得意だ」 「数学の授業の内容はよく分かる」
- 「PC・タブレットなどのICT機器を活用し、情報を整理する（図、表、グラフなどを使って）ことができる」

【全国平均と比較して低い結果となった主な項目】

（小学校・中学校共通）

- 「国語の勉強が好きだ」「国語の勉強が得意だ」
- 「国語の授業で、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている」
- 「算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」
- 「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」
- 「PC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーションを作成することができる」

（小学校）

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）に、1日当たり1時間以上勉強をしている割合」
- 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をしている割合」
- 「国語の授業で、先生は、学習のうまくできていないところやどうしたらうまくできるかを教えてくれる」
- 「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」

（中学校）

- 「国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている」
- 「国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている」

【肯定的回答の割合が高い主な項目】

（小学校・中学校共通）

- 「先生はよいところを認めてくれている」 （小92.3 中90.0）
- 「友だち関係に満足している」 （小93.2 中91.8） 「人の役に立つ人間になりたいと思う」 （小96.3 中96.1）
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」 （小94.5 中90.9）

◇調査結果の分析と今後の主な手立て

- 児童生徒質問調査の結果から、「国語の勉強が好き」といった教科への関心に関する項目をはじめ、「国語の授業で文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている」や「算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動を行っている」など、各教科の授業設計に関する項目に課題が見られました。これらの結果を踏まえ、各教科における授業改善を一層推進していく必要があります。そのため、学校組織として全教職員が一体となって取り組む体制づくりを進めながら、授業改善に対する意識の向上を図ります。令和8年度からは、教育委員会として、学校および有識者で構成する「授業改善プロジェクトチーム」を立ち上げ、先進校視察や専門的助言を生かしながら、授業改善のプロセスや方法について研究を進めるとともに、学校全体、さらには市全体の授業改善の活性化を目指します。
- 「自分で課題を立てて調べたことを発表する」「学級での話し合いを生かして課題を解決する」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」といった総合的な学習の時間や学級活動、地域への関心に関する項目についても、小・中学校ともに課題が見られました。体験的活動や総合的な学習の時間においては、各活動のねらいを明確にし、子どもたちが自己決定する機会を充実させることで、主体的に課題に向き合い、解決していく力の育成を図ります。また、本市の取組である「学校夢づくりプロジェクト」を活用し、各校の活動をさらに充実させるとともに、取組成果を共有し、児童生徒による相互評価や表彰の機会を設けることで学びを広げ、子どもの豊かな発想を生かした学校と地域の協働を促進し、地域への愛着の醸成と特色ある教育活動の発展につなげていきます。
- 「先生はよいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できる」といった、本市がこれまで大切にしてきた子どもの自尊感情の育成や安心した学校生活につながる項目では、肯定的な回答の割合が高い状況にあります。この強みを生かし、今後も、地域・家庭と連携しながらきめ細かな支援を行うとともに、学びの土台である「子どもたち一人ひとりが『自分も大切にされている』と実感できる環境」と「主体的に学べる授業」を両輪として教育活動を進めます。そして、子どもが学ぶ楽しさを実感し、自ら課題を見出し、学びを社会や地域につなげる力を育む教育を推進します。